様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３３９０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１１８７９

研究課題名（和文）発達障害児をもつ養育者支援における保健師－保育士の連携促進プログラムの開発

研究課題名（英文）The Development of Promotion Program of Partnership Activities between Public Health Nurses and Nursery Teachers on Their Support to Parents of Children of Concern

研究代表者
大塚　敏子（Otsuka, Toshiko）

椙山女学園大学・看護学部・教授

研究者番号：８０５１５７６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：保健師・保育士への面接調査の分析から作成した質問紙を用い保健師248名，保育士881名に調査を行った。有効回答773部を分析対象とした。結果、両職種とも連携は保護者支援に役立つと感じる一方で、相手職種の機能・役割への理解不足、支援結果の報告や役割分担の共通認識の不足を感じ、これらの不足を感じている者ほど連携への意欲が低かった。これらのことから両職種の連携促進プログラムには互いの職種の役割への理解や支援の際の役割分担の共通認識を深める要素が必要であることが示唆された。また、本調査結果を使用し発達上気になる子どもの保護者への支援に関する保健師と保育士の連携活動を各職種が自己評価する尺度を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
両職種からのデータ収集から連携の課題を明確とすることにより、連携促進に向けた科学的根拠のあるプログラムの構成要素が抽出できる。開発されたプログラムが活用されることで両職種の有機的な連携が期待でき、近年高まっている発達障害に関連した子育て支援のニーズに応えることができる。また、発達障害以外の両職種の連携を必要とする他の課題への好影響も期待できる。

研究成果の概要（英文）：We drew up the questionnaire by analyzing an interview data and sent it to 248 public health nurses and 881 nursery teachers.A total of 773 completed the survey and were included in the analysis. They felt that the partnership among public health nurses and nursery teachers helped their support to parents,but they felt the lack of understanding of each professional role and function, reporting of outcome of support action and common recognition of division of the roles.And it is found that the feeling of an insufficiency of the partnership and a motivation for the relationship are significantly related.This study suggests that the promotion program of partnership activities between public health nurses and nursery teachers on their support to parents of children of concern requires these elements.In addition we developed “ self-assessment scales of partnership activities between public health nurses and nursery teachers on their support to parents of children of concern”.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：連携　保健師　保育士　発達障害　保護者

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害などの発達障害児や、発達障害の診断はなくても発達上“気になる児”の増加が指摘されている。これに伴い発達障害に関連した子育て支援のニーズも高まっておりこれに応えることが急務である。現在、市町村では保健師が中心となり乳幼児健康診査でのスクリーニング、個別相談や家庭訪問、発達支援教室での発達支援・養育者支援を経て療育機関や医療機関につなげる「早期発見から療育、診断、継続支援のシステム」が整備されつつある。また保育所保育士は保育のみならず養育者への積極的支援、他の専門職種との連携やネットワークづくり等、新たな役割も求められるようになってきている。しかし、発達障害支援における保育士の役割や他職種との連携に関する先行研究はまだ少ない。また個人情報保護の問題や情報提供による入園拒否等の問題など、発達障害に関する両職種の連携には課題が残されている。さらに近年、臨床心理士等の専門職種が保育所や幼稚園に出向いて保育者からの発達に関する相談に応じる“巡回相談”の導入など発達障害に関する支援者支援の新たな取組みが盛んである。これらにより、保健師・保育士が互いに求める役割も変化していることが予想される。

そこで申請者らは発達障害における保健師および保育士の養育者支援の実態と互いの職種への役割期待を明らかにすることを目的に半構造化面接によるインタビュー調査を行った。両職種とも養育者支援において困難さを感じながらもきめ細かな支援を行っている一方で、両職種の連携状況について十分であるとの認識はなかった。保育士では保健師の役割が分からない、保健師からの情報提供が少ないと感じ連携の満足感が低く、保健師では個人情報保護の観点からの情報提供に関する迷い、巡回相談などの新たな取組みによる保育士との連携における自身の役割への迷いがあった。

２．研究の目的

保健師と保育士の「発達障害児をもつ療育者への支援と連携」に関する質問紙調査を実施し、発達障害児（疑いを含む）をもつ養育者支援における保健師－保育士の連携の課題を明らかにすることで、両職種のより有機的な連携を目指した研修プログラムの開発を目的とする。

３．研究の方法

【研究 1】（保健師－保育士連携における課題の明確化）

①質問紙作成：前年度までに実施したインタビュー調査の結果を精査するとともに、両職種の連携における課題が浮き彫りになるよう質問紙調査の項目を検討する。

②プレテストの実施：保健師および保育士にプレテストを行い、調査項目を修正する。

③質問紙調査の実施および結果の分析

【研究 2】（研修プログラム作成、実施、評価）

①質問紙調査結果をもとに、発達障害支援における有機的な保健師－保育士連携を目指す研修プログラムを研究代表者、研究分担者で検討、調査協力市の保健師および保育士から意見を聴取し、修正を加え完成させる。

②研修プログラム評価のための尺度開発：質問紙調査結果を使用し、プログラム評価のための尺度を開発する

４．研究成果

保健師および保育士への面接調査の分析から質問紙調査の項目を検討し，便宜的に抽出した東海地方 2 県 9 市の保健師 248 名，保育士 881 名を対象とした質問紙調査を行った。調査項目は性別、年齢、勤務形態、経験年数、所属機関、担当クラスの年齢（保育士のみ）、所属園の規模、職位、連携先、相手職種との連携経験、連携評価尺度、相互役割期待（現状と理想）、仕事満足度、連携リフレクション尺度（藤田 2016）、連携の際の困難感、連携に関する学習経験、連携について困っていることや学びたいこと等である。回収数 940（83.3%）のうち有効回答 773 を分析対象とした。分析の結果、相手職種の職務への理解について、保健師については「全く・あまりそう思わない」との回答は 8.3%であった一方、保育士では「全く・あまりそう思わない」42.3%、「どちらでもない」28.0%だった。また、相手職種との関係性、連携の頻度・タイミングが適切であるかどうかについて、「とても・少しそう思う」と回答したのは保健師の方が多い結果だった。さらに行った支援について相手職種への連絡をしているかについては、保健師では 74.5%が「とても・少しそう思う」と答えており、保育士の 49.0%より多い結果だった。また、相手職種からの支援結果の連絡があるかについては、「全く・あまりそう思わない」との回答が保健師では 16.1%、保育士では 28.0%だった。

保護者支援の際の役割の現状認識や理想とする役割分担は保健師と保育士で異なっていた。両職種とも多くの項目で“どちらかというと自身の職種が担っている”と認識していた。保護者支援の際の役割分担について、両職種ともほとんどの項目で「現状」と「理想」にギャップがあった。こうしたギャップは連携の阻害因子になることが考えられた。

これらの結果から、保健師と保育士の連携促進のプログラムに必要な要素として、各職種の役割について理解を深めること、また実際のケース検討等を通じて互いの現状認識の違いや自身および相手職種への役割期待を共有しケースに応じた役割分担を共有することが示された。しかし、質問紙調査時期の遅れなどから研究期間内に【研究 2】のプログラム実施、評価に至らな

かった。
　本質問紙調査の結果を使用し、6 因子 25 項目の「発達上気になる子どもの保護者支援に関する保健師-保育士連携活動自己評価尺度」を開発した。因子は【互いの支援に役立つ情報の交換】【相手職種と関わる機会と関係性】【相手職種および社会資源の理解と活用】【対象特性や支援方針の共有と役割分担の理解】【情報共有に対する保護者の同意への配慮と支援結果のやりとり】【情報共有に関する所属機関のルール整備】と命名した.

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計 2 件）
①大塚敏子、巽あさみ、坪見利香、発達上気になる子どもの保護者支援に関する保健師-保育士連携活動自己評価尺度の開発、日本地域看護学会誌、査読有、22 巻、1 号、2019、4-11
②大塚敏子、巽あさみ、“気になる子ども”の保護者への支援における保健師と保育士の連携経験と相互役割期待、日本看護研究学会誌、査読有、41 巻、4 号、2018、651-663
DOI：10.15065/jjsnr.20171129006

〔学会発表〕（計 2 件）
①大塚敏子、発達障害を疑われる子どもをもつ保護者支援の際の保健師と保育士の連携における支援役割の現状認識と理想、第 21 回日本地域看護学会学術集会、2018
②大塚敏子、“気になる子ども”の保護者に対する保健師と保育士の連携に関する経験と相互役割期待、第 5 回日本公衆衛生看護学会、2017
③TSUBOMI Rika, Solidarity between Nursery Teacher and Public Health Nurse in Supporting the Parents of Troublesome Children, The 9th Asian Society of Child Care, 2017

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：巽あさみ

ローマ字氏名：(TATSUMI, asami)

所属研究機関名：浜松医科大学

部局名：医学部看護学科

職名：教授
研究者番号（8 桁）：90298513

研究分担者氏名：坪見利香
ローマ字氏名：(TSUBOMI, rika)

所属研究機関名：浜松医科大学
部局名：医学部看護学科
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：40452180

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。